「龍谷の森」里山保全の会例会
「瀬田丘陵の春を遊ぶ」

江南　和幸

2006年4月15日午前10時龍谷大学瀬田キャンパスバス停集合
（小雨決行）午前中散策、お昼から簡単な料理と試食

瀬田丘陵の春を遊ぶ

一京人（みやこびと）わかなつみにとむれてきてひとりづつゆくをだのほそ道

冬の落ち葉掻きも無事に終わり、春の野遊びを待つ身には、いつにない遅い春に心急くこの頃かとお察し申し上げます。しかし嬉しいニュースもあります。しばらくおとなしかったオオタタが、久しぶりに巣作りをはじめ子育てをしています。龍谷の森里山保全の会の活動はしばらくの間森の中での大人数の活動をお休みして、代わりに瀬田丘陵と田上の里の、をだのほそ道、を歩き、春の恵みを頂く会を企画しました。この企画はまた、龍谷大学里山学・地域共生学オープンリサーチセンターの公開講座との共催となります。

瀬田丘陵の森の縁と田上のあぜ道を歩き、タカノツメ、コシアブラの木の芽採り、ヤブカンゾウ、ノビル、鼻炎を予防するとつい最近話題になったツクシ、タンポポ、ウドの芽、ミツバなどを摘み、一巡りの後、キャンパスに戻り、大学の教室でカンゾウの味噌和え、ノビルとキノコの味噌汁、タンポポのサラダ、タカノツメご飯などを試食します。

上記の案内で募集を行ったところ、会員の他、市民から７０人を越える多数の参加者を得て、若菜摘みだけではなく、田上の林縁に咲くシュンランの株を多数見つけるなど、嬉しい野遊びとなった。2006年は、今から思えば不思議なほど遅い春となり、お目当

てのタカノツメの若芽がほとんど採れず、主催者側をやきもきさせたが、ノビル、タンポポ、カキドオシ、タラノ芽が沢山採れ、素朴なサラダや味噌汁を満喫した。公開募集に応募した多くの市民参加者の、野の恵みを頂くことへの思わぬ反応に、飽食の現代人の自然への渇望を見たのは企画の発案者だけではなかったようだ。